

まえがき

鶴 光太郎¹

本論集は、2023（令和 5）年度慶應義塾学事振興資金（研究科枠）による慶應義塾大学大学院商学研究科プロジェクト「想定外の時代」における経済と経営」の研究成果をまとめたものである。

過去 10 年程度を振り返ってみても、東日本大震災と原発事故、新型コロナウイルス感染症の勃発、ロシアのウクライナ侵攻とそれを契機にした世界的な物価高など想定外の事態が日常的に起こり、我々の想像を超えた状況が日々進行している。想定外に対する日頃の備えだけでなく、大きなショックに対する「レジリエンス」（強靱性、適応性）が企業経営、ひいては、産業、経済全体に求められている。想定外が日常化する不確実性の強い時代にあって、企業、産業、政府それぞれにレベルにおいて、予想を超えたショックに強い体質を構築し、その後のしなやかな回復を実現するためにどのような対応・取り組みが必要かといった問題に関して、多面的に検討することが重要である。こうした問題意識に基づき設定された主課題「想定外の時代」における経済と経営」に対して、商学の各分野の視点に即したサブ課題が設定され、それぞれの分野の大学院生が指導教授の助言のもとに理論的・実証的分析を行った。

各プロジェクトの成果は、2024 年 7 月 2 日（火）に開催された研究成果報告会において報告された。当日の会場では活発な質疑応答が行われ、報告者の各大学院生は専門分野のみならず異なる分野の視点からのコメントを受けて非常に多くの刺激を受けたようである。それらを糧として各自の研究が今後さらに進展することを大いに期待したい。

本論集には、当日の報告のもとになった論文 5 編を収録した。これらは今後、学術雑誌への発表などを目指して各著者により加筆修正される可能性がある。したがって、これらからの引用を希望する場合には、事前に各著者へご連絡いただけるようお願いする。

¹ 2023 年度研究プロジェクト・コーディネーター（研究代表者）、慶應義塾大学大学院商学研究科委員